

現行計画の達成状況評価について

1 目的

現行の大竹市子ども・子育て支援事業計画（計画期間：平成27年度～平成31年度（令和元年度））に掲載の子ども・子育て支援に係る施策・事業の取組内容とその達成状況について、一定の基準に基づき評価するとともに、今後の方向性や課題を整理するものです。

2 達成度の基準と評価点

次の表を基に関係各課で評価を行い、評価点に換算しました。

達成度	評価内容	達成状況	評価点
A	施策・事業の目的を達成できた。	80～100%	100
B	施策・事業の目的をある程度は達成できた。	60～80%程度	80
C	施策・事業の目的の達成に向けて動いている。 （半分程度は実施できた）	40～60%程度	60
D	施策・事業の達成に向けて動き始めている。 （施策・事業に着手し、動き始めることはできた）	20～40%程度	40
E	施策・事業に着手することができなかった。 （未実施のままである）	20%未満	20

3 施策体系

大きく6つの基本目標を定め、それに基づく基本施策を定めています。

- （1）子育てが楽しいまちづくり
- （2）子育てセーフティネットの充実
- （3）「いいお産」と母子の健康づくり
- （4）仕事と家庭の両立支援
- （5）健やかな次世代の育成
- （6）子どもの視点からの生活環境の整備

4 調査結果と評価

施策全体の評価は79点で、基本目標別では「子育てセーフティネットの充実」（87点）が最も評価が高く、「仕事と家庭の両立支援」（69点）が最も低い評価となりました。【P5】

（1）子育てが楽しいまちづくり【P7～11】…81点

最も評価が高かったのは「多世代の交流の場づくり」「生涯学習・スポーツ活動などの推進」で、前者は「高齢者との交流促進」【P10】、後者は「自然・環境などの体験学習の推進」【P11】などに取り組みました。

最も評価が低かったのは「総合的な子育て支援体制の整備」で、特に「親子の遊び場づくり」【P9】について、遊具のある屋内施設の整備などに課題が残りました。また子育てなどに関する「相談体制の整備」【P8】や「情報提供の充実」【P8】についても、より積極的な取組が求められます。

(2) 子育てセーフティネットの充実【P 12～15】…87点

最も評価が高かったのは「経済的負担の軽減」ですが、国や県の制度に基づく手当などの給付が主となっています。【P 14～15】

最も評価が低かったのは「児童虐待・DV防止対策・要保護児童支援の推進」で、特に「子どもの権利尊重の意識啓発」は講演会等による啓発などは未実施のままとなっています。また、「児童虐待の予防」「児童虐待の早期発見」【P 13】などについては、多発・複雑化する児童虐待等の防止・早期発見・支援のための組織体制の充実が求められます。

(3) 「いいお産」と母子の健康づくり【P 16～19】…80点

最も評価が高かったのは「小児医療体制の充実」で、「乳幼児等医療助成費」【P 19】では、基金を活用して県の補助制度に市独自の「中学校卒業までの医療費助成」を実施しました。また「医療に関する情報提供・相談体制の充実」【P 19】にも積極的に取り組みました。

最も評価が低かったのは「「いいお産」の普及」で、特に「産科医療施設人材（助産師等）育成支援」【P 17】については助産師数の増加に繋がっていない状況です。また「産科医確保支援事業」【P 17】についても、産科医不足を抜本的に解決するものでないため多くの課題があります。

(4) 仕事と家庭の両立支援【P 20～23】…69点

最も評価が高かったのは「多様な働き方の実現」で、国の働き方改革などを背景に様々な周知啓発に取り組みましたが、子育て支援の観点からの取組としては課題があります。【P 22～23】

最も評価が低かったのは「保育サービスの充実」で、保育士不足等により保育所などの待機児童が発生しているほか、保護者のニーズに沿った保育時間やサービスを十分に提供できていない状況です。また、公立保育所については国の補助制度が無い中で、老朽化した施設・設備の環境改善が大きな課題となっています。【P 21】

(5) 健やかな次世代の育成【P 24～27】…83点

最も評価が高かったのは「小・中学校教育の推進」「青少年の健全育成」で、前者は「学校校舎改築・耐震診断および改修」【P 25】について、施設の長寿命化を目的とした玖波小学校の改築が完了し、市内全小・中学校の校舎耐震化率100%を達成しました。後者は「ジュニアリーダー育成事業」「中学校交歓交流事業」「郷土の歴史・文化とふれあう機会の充実」など青少年健全育成のための取組を積極的に行いました。【P 26】

最も評価が低かったのは「幼児教育・保育の推進」で、家庭・地域・学校と連携した自然体験・社会体験について、費用や安全面の確保等の課題から積極的な取組には至っていません。【P 25】

(6) 子どもの視点からの生活環境の整備【P 28～30】…83点

最も評価が高かったのは「世代にあった遊び場の確保」で、「親子が遊び交流できる公園・広場の整備」【P 29】として、晴海臨海公園やさかえ公園に大型遊具を整備しました。

最も評価が低かったのは「子育てバリアフリー化」で、「子育て世帯を支える意識の啓発・情報発信」【P 29】については、企業や関係団体等、市民への啓発が十分でなく、また子育て世帯に配慮した歩道や公共施設の整備など、「子育てにやさしいまち」の観点でのハード整備には大きな課題があります。